

法政大学

SDGs+（プラス）プロジェクト

Voluntary University Review

SDGs+レポート

2021



SDGs VUR発行に寄せて

法政大学は、2018年12月にSDGsに関する総長ステートメントを発表し、大学全体としてSDGs達成に向けた取り組みをより一層加速することを宣言しました。その際に2016年に策定した法政大学憲章「自由を生き抜く実践知」において「地球社会の課題解決、持続可能な未来への貢献」を掲げているなど、本学の理念とSDGsとの共通性を確認するとともに、すでに学内各部局の学生、教職員が取り組んでいる諸活動の中に、SDGsの枠組で位置づけられるものが、多数、多様に存在していることを確認しました。

その後の活動展開のなかで、SDGsという包括的な枠組に照らすことによって学内の諸部局、さまざまな主体によって実行されてきた諸活動と、新たに取り組みが始まった活動を、体系的に位置づけ、可視化できることの効果を確認してきたところです。その中で、2018年のステートメントで述べられた理念の有効性を確認するとともに、今後は学内の多様な取り組みの実態と課題を振り返り、それを通して一層幅広い主体の参加を促し、また、相互の経験共有を通して取り組み内容の高度化を図っていくべき段階を迎えていると考えました。そこで、法政大学のSDGsに関する取り組みの概要を定期的にVoluntary University Reviewとして発行していくことを決定しました。

これにより、本学のSDGsに関する諸活動の具体的な内容を分かりやすく伝え、学内外のさまざまな方々と共有し、次のステップへとつながっていくことを期待しています。

法政大学総長

廣瀬 克哉



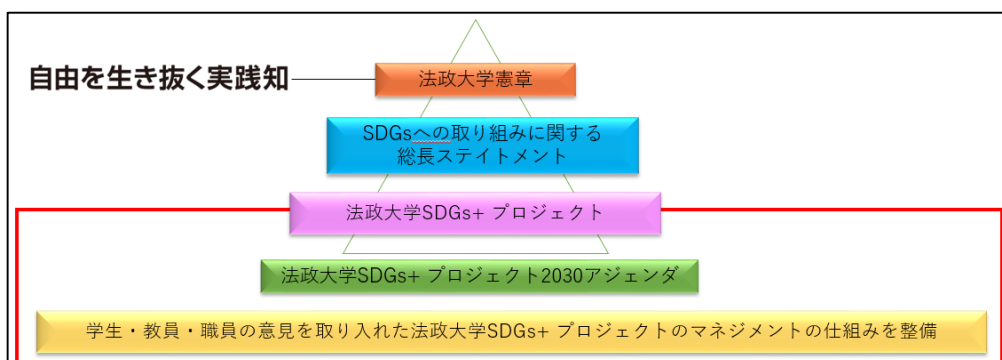
法政大学SDGs+(プラス)プロジェクト と 法政大学SDGs+プロジェクト2030アジェンダ

法政大学SDGs+プロジェクトとは

法政大学では、1999年に環境憲章制定、ISO14001審査登録など、地球環境との調和・共存と人間的豊かさの達成を目指し続けてきました。2016年には法政大学憲章「自由を生き抜く実践知」を制定し、より一層、地球社会の課題解決への貢献および持続可能な社会の未来に貢献することを謳っています。

2018年12月には、法政大学憲章の下、「SDGsへの取り組みについての総長ステイメント」を発表するとともに、全学的にSDGsを推進し、法政大学ならではの貢献をプラスするという意味を込めたプロジェクト「法政大学SDGs+(プラス)プロジェクト(以下プロジェクト)」を設置しました。プロジェクトでは「教育」「研究」「社会貢献」「学生」の4つを軸とし、様々なパートナーと連携しながら活動を実施しています。

法政大学とSDGs



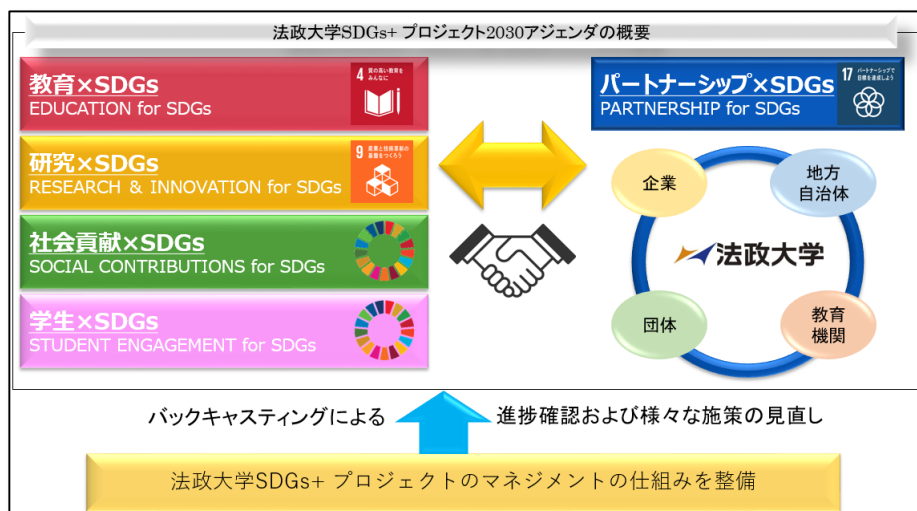
法政大学SDGs+プロジェクト2030アジェンダとは

本プロジェクトでは、SDGsの「行動の10年(Decade of Action)」がスタートしたことを踏まえ、2030年までに達成すべき目標として、「法政大学SDGs+プロジェクト2030アジェンダ(以下アジェンダ)」を2020年9月に策定しました。

アジェンダでは、「教育」「研究」「社会貢献」「学生」「パートナーシップ」のゴールを定め、それぞれに、ターゲット、インディケーター、目標値(2030年次)を設定しています。

また、アジェンダの進捗状況を確認し、行動計画の改訂を行うレビューミーティングを実施しています。

このSDGs+レポートでは、ゴールごとの主な活動内容を報告します。



教育×SDGs

EDUCATION for SDGs

4 質の高い教育を
みんなに



ゴール1

SDGs人材育成のためのあらゆるプログラム を設置し、SDGs人材を世界中に輩出する。

ターゲット	インディケーター	目標値(2030年次)
1.1 全ての学生がSDGsについて理解する。	1.1.1 オンライン講座「SDGs入門」の受講者数	累計1万人以上
	1.1.2 SDGsサティフィケート取得者数	累積2,000人以上
1.2 全ての学生が多様なフィールドでSDGsを 実践する。	1.2.1 SDGsに関連したフィールドワークプログラムの実施数	累積100以上
	1.2.2 SDGsに関連したフィールドワークの参加人数	累積2,000人以上
1.3 全ての学部等においてSDGsに関連する 科目を幅広く開講する。	1.3.1 SDGsに関連する科目数	2030年のSDGs科目 群への提供科目数 1,000科目以上

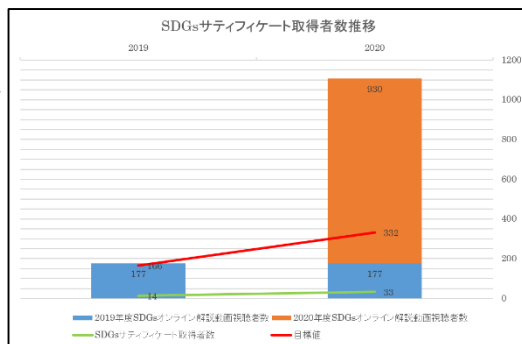
SDGsサティフィケート

法政大学SDGsサティフィケートとは、本学が独自で制作した「SDGsオンライン解説動画」を視聴したうえで、全学部から提供されたSDGsに関連する科目で構成されている「SDGs科目群」

の中から12単位以上修得することで授与される修了証（サティフィケート）のことです。

本プログラムは2019年度の4月からスタートしましたが、2030年までのサティフィケート取得者数を2,000人以上という目標に対して、2020年度末現在で33人に留まっています。これらの原因としては、本プログラムの認知度やサティフィケート取得に対する動機付けが低いことが考えられます。

一方で、サティフィケート取得条件の1つとなっているSDGsオンライン解説動画については、2019年度の視聴者数が177人であるのに対して、

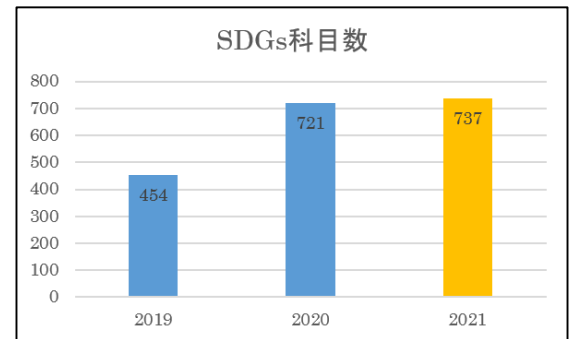


SDGsサティフィケート見本

2020年度の視聴者数は930人まで増加し、累計で1107人の学生が視聴していることとなります。この数値は、2020年度末時点のサティフィケート取得者数の目標値である332人を大きく上回る数値であり、今後のサティフィケート取得者数の増加に期待ができます。引き続き、学生の認知度向上に加え、サティフィケートを取得する意義や重要性を発信し、プログラムの充実化を図ります。

SDGs科目

SDGs科目とは、全15学部から提供されたSDGsに関連する科目のことです。大規模総合大学ならではの多彩な領域に係る科目が提供されており、2021年度現在では737科目が



SDGs科目として提供されています。多くの科目は他学部公開科目として指定されており、学生は所属学部以外のSDGs科目も履修することができます。

今後は、関連するSDGsのゴールを示すだけでなく、ごみ問題やフードロスといった、地球社会を取り巻く問題・課題などのテーマ別に分類し、学生の興味関心に合わせた見せ方の工夫なども行っていきたいと考えています。

SDGsサティフィケート取得学生の声

『無関心ではいれても、無関係ではない。』私がSDGsを深く学ぼうと思ったきっかけには、このような想いがありました。どんなに小さなことでも、私たちの毎日の選択が社会課題の要因へと繋がる場合があります。

SDGsサティフィケートの取得を通して学んだことは、課題解決は一筋縄ではいかないこと。例えば、1つのゴールだけの解決を目指す、どこかに矛盾が生まれてしまします。しかし、課題を1面からのみ捉えるのではなく、多角的な視点で考えられる17のゴールが提示されているからこそ、多様な方向からアプローチする重要性に気づかされ、

それと同時に多くの協力が必要であることも知りました。正直、SDGsに関する国際的な問題を知って、その後あなたが行動するかしないかはその人次第だと思っています。しかし、事実として問題が存在していることは変わりません。世界で起こることには、何かの関係があり、私たちはその世界の1部。もし、SDGsにあまり興味がなく、自分とは遠い何かに感じている方でも、まずは『知ること』から始めてみませんか？学内には、SDGsを自分の言葉にできるよう、色々な授業が開講されているので、興味のあるものを1つでも受講してみることがあなたの扉を開くきっかけになるかもしれません。



グローバル教養学部
佐藤 絢香さん

研究×SDGs

RESEARCH & INNOVATION for SDGs

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



ゴール2

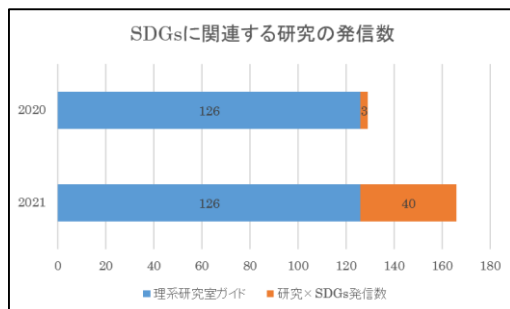
SDGs達成に貢献する研究を推進し、 社会に発信する。

ターゲット	インディケータ	目標値(2030年次)
2.1 SDGs達成に貢献する研究やSDGsに関連する研究を活発に行う。	2.1.1 SDGs登録プロジェクト数	累積100以上
	2.1.2 SDGsに関連した他機関等との共同研究数	累積50以上
	2.1.3 ホームページや冊子等で発信するSDGsに関する研究数	累積500以上

SDGsに関連する研究の発信

法政大学は15学部38学科を擁する大規模総合大学です。専門分野も多岐にわたり、文系理系問わず活発な研究が行われています。研究とSDGsの関わりは非常に密接であり、SDGsのゴール9「産業と技術革新の基盤をつくらう」だけではなく、その他の多くのゴールを達成するためのベースあるいは直接的に貢献しようと考えています。

プロジェクトでは、アジェンダの1つにSDGsの関連する研究の発信を掲げ、本学の多様な研究内容を発信しています。発信を始めた2020年度においては、受験生向けに発行している「理系研究室ガイド」において、本学の理系学部（理工学部・生命科学部・情報科学部・デザイン工学部）のうち、



126にのぼる研究とSDGsの関わりについて発信しました。2021年度には、理系研究室ガイドに加え、本学のSDGsページにおいて「研究×SDGs」として、本学教員の研究とSDGsの関わりについて発信を開始しました。現在では40以上の記事を掲載していますが、今後も継続的に発信を続け、企業や自治体など多様な機関との連携や共同研究を促進します。



Webサイト「研究×SDGs」

本学教員の研究内容やSDGsの関係性について、詳しく掲載しています。このページを1つの基盤とし、他機関との連携や共同研究へと繋げることを目指します。



理系研究室ガイド

主に受験生を対象に、本学教員の研究内容とSDGsの関わりを示しています。受験生の学部選びの基準の1つとしてSDGsも考えてもらうことを目的としています。

SDGsと研究の関わり

研究・開発とSDGsは非常に関係が深く、SDGsの達成には研究開発が欠かせないものであることはSustainable Development Goalsという名称からもわかります。そのため、大学における文系・理系の研究活動では、以前からSDGsに挙げられるような課題の解決を目指す研究が多く実施されています。

特に理系の研究は、卒業研究や修士・博士課程の研究において、環境問題やエネルギー問題の解決などSDGsの解決に直結する研究開発が殆どを占めています。また、理系学部では、「卒業研究」を学部4年間の集大成となる最重要の科目と位置付けていることが多く、修士・博士課程では研究開発活動が教育の中核となります。加えて、理工学部機械工学科の例では、「PBL」という授業科目でもSDGsを取り上げ、学生さん達に社会や世界が直面する課題の解決

の意識付けを実施しています。この授業科目「PBL」は卒業研究に向けた準備・助走区間のような授業科目であり、『学生自ら社会や身の回りの課題を議論・調査・発見し、課題設定する。そして、その課題の解決策を考え、そのアイデアを実行により具現化する』という具体的な研究開発活動を実施してもらっています。

これらの研究活動は、SDGsの課題解決に直接的に貢献するだけでなく、学生さん達の主体性、自発性、自律的に学ぶ力を強力に育成し、他者や社会への貢献心、コミュニケーション能力、自ら考える力をも育みます。また、これらの研究活動は、SDGsへの貢献を目指す企業や他研究機関との共同研究にも繋がっています。研究成果の発信の例としては、「法政科学技術フォーラム」と「理系研究室ガイド」が挙げられます。「法政科学技術フォーラム」は、前法政大学副学長・常務理事の尾川先生の主導で企画されたフォーラムであり、研究開発により得られた成果を社会に発信・還元することは、SDGsの推進の上でも非常に重要です。



理工学部機械工学科
吉田 一朗 教授

社会貢献×SDGs

SOCIAL CONTRIBUTIONS for SDGs



ゴール3

社会との接続を強化し、誰一人取り残さない社会を構築する。

ターゲット	インディケーター	目標値(2030年次)
3.1 SDGsの「leave no one behind(誰一人取り残さない)」の理念に基づき、誰もが無償で受けられるプログラムを提供する。	3.1.1 SDGsに関連する講座、セミナー、シンポジウムの開講数	累積20以上
3.2 SDGsを軸とした高校教育と大学教育の接続プログラムを実施する。	3.2.1 プログラム実施数	累積50以上
3.3 SDGsを軸としたインターンシップを活発に実施する。	3.3.1 地方自治体とのインターンシップ実施数	累積10以上
	3.3.2 企業とのインターンシップ実施数	累積10以上

SDGsに関連するプログラム等の提供

プロジェクトでは、学生への教育プログラムだけではなく、社会貢献として一般の方にも多様なプログラム等を提供しています。これまでに、本学学生以外も受講することができるセミナーやシンポジウム等を16回実施しました。実施方法として「誰もが、いつでも」受講できるよう、リアルタイムオンラインあるいはオンデマンドも活用しています。

また、高大連携については、本学学生が高校生を対象にSDGsをテーマにした学習会を開催したり、グループワークを行っています。今後は、高校生と大学生が共同でアクションを起こすなど、双方が主体的に関わっていくことができる高大接続プログラムの確立を目指します。

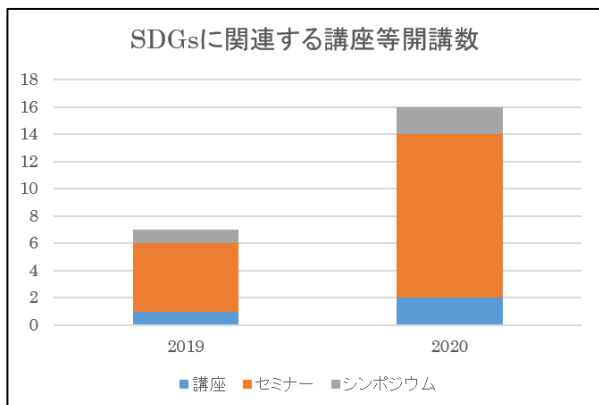


(上)シンポジウム「SDGs時代のグローバル人材」

2020年3月にSDGsのシンポジウムを開催し、当日はYouTube Live配信しました。リアルタイム視聴者数は364人にのぼり、多様な地域・職業の方に視聴いただきました。終了後も、プロジェクトのYouTubeアカウントにて公開しています。

(左)オンライン講座JMOC「SDGs入門」を開講

無料で学べるオンデマンド教材として、JMOC「gacco」と連携し、「SDGs入門」を開講しました。延べ約1万人に受講していただきました。



陸前高田市とのSDGsワークショップ

陸前高田市とのSDGsワークショップとは

法政大学と岩手県陸前高田市は「SDGs連携協定」に基づき、2020年に「SDGsワークショップ」を実施。本ワークショップでは、約3カ月にわたり学生チームと市内の四つの事業者が一緒になって、SDGsの課題解決に向けた提案を考えました。



法学部政治学科 中越 百合子さん

自分ごととして捉えられるように
ワークショップでは、学生が主体的にアイデアを出して進めるため、柔軟な発想が求められる点に難しさを感じました。手探りの状態でしたが「障がいのあるなしにかかわらず同等に付き合えるようになりたい」という事業者さんのニーズに応えるため、チームの枠にとらわれずに色々な方に声をかけることを心掛けました。その過程で、事業者さんのことを自分ごととして捉えられるようになったように感じています。自分の考えを簡潔に伝えることを目標に、これからも取り組んでいきたいと思っています。

自分たちができることに気付けた



(株)山十 伊東文具店 伊東 亜希子さん

始める前は、書店の立場でできることはSDGs 関連本のコーナーを作るぐらいしか思い浮かびませんでした。ワークショップを通じて、「私たちができることはこんなにあるのだ」と気付くことができました。

少しずつ形にしながら、実現に向けて動き出したいと思います。ワークショップはオンラインだけでしたが、学生さんから提案があるたびにワクワクして、楽しかったです。陸前高田市にも遊びにきてください。

学生 × SDGs

STUDENTS ENGAGEMENT for SDGs



ゴール4

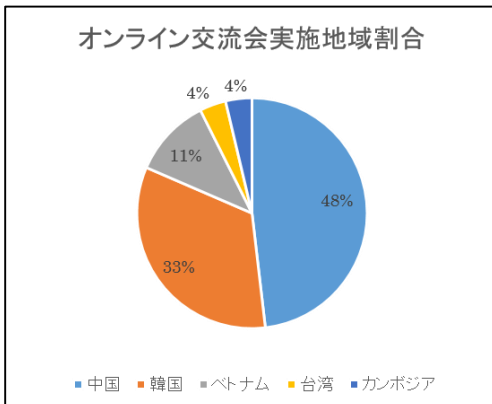
学生があらゆる場所で活躍できる フィールドを提供する。

ターゲット		インディケーター	目標値(2030年次)	
4.1	すべての学生がSDGs達成に貢献する取り組みを実施する。	4.1.1	SDGs Action Students of HOSEI (SASH) 登録者数	累積500人以上
		4.1.2	認定プロジェクト数	累積100以上
4.2	世界中の学生とSDGsをテーマにした交流を実施する。	4.2.1	海外学生との交流プログラムの参加人数	累積1,000人以上
4.3	学生がSDGs達成に貢献する活動やSDGsに関連する活動内容を発信する。	4.3.1	コンテストやポスター展示会などのプログラム実施回数	累積20以上

海外大学とのオンライン学生交流会

2020年5月より、海外協定校を中心に、本学学生と海外大学生とのオンライン交流会プログラムを開始しました。新型コロナウイルスの影響を受け、海外の現地に赴く機会やプログラムの提供、日本に留学してきた海外の学生と交流する機会を失ってしまった本学の学生に対し、オンラインを活用して国際交流の場を提供することを目的に実施しています。

プログラムでは、異なるバックボーンをもつ海外大学の学生がSDGsというグローバルな課題をどう捉えているのか、またローカルな課題に落とし込んだ時（ローカライズ化）、日本とどのような違いがあるのか等を学ぶことができます。これまでに、5つの地域との交流会を実施し、延べ390人の学生が参加しています。今後も、様々な海外地域との交流会を実施するとともに、学生にとって新たな刺激を与えるプログラムを展開していきます。



中国 日本語の会話の練習だけでなく、日本の祭やごみの分類など、興味深いことについて一緒に話し合うことができ勉強になった。

台湾 こんな大変な時期に、日本の学生とオンラインで交流することができてよかった。

韓国 初めてzoomを使って交流会をした。楽しかった。コロナ以降のそれぞれの国の生活事情や国民の意識なども知ることができ、新しい気付きがあった。

海外大学の参加者の感想

SASHの活動

私たちSASH（サッシュ：SDGs Action Students of HOSEI）は、SDGs達成のために様々な活動を行っている大学公認の学生組織です。最近の活動では、高校生・大学生を対象にアパレル産業が抱える環境・人権問題についてのオンライン勉強会や、生理などについて参加者同士で話し合うイベントなどを開催しました。また、オンラインでの活動を最大限に活かして関西大学の学生との合同チームKLASH（クラッシュ）を立ち上げたり、高校生ともイベントを共同開催するなど、活動の幅を少しずつ広げています。私自身SASHに入る前は「私一人が何かしたところで」と行動を起こせずにいましたが、気候変動やジェンダー格差の

深刻さを知っていくうちに「何か行動しなくては」と思うようになりました。実際に、ドキドキしながらイベントを開催してみると、多くの人たちに新しいことを知ってもらうことの大切さや様々な人たちとの繋がることの楽しさなど、やりがいを感じることができました。SDGsが抱える問題はすぐには解決できません。しかし一人ひとりに社会を良くする力があり、一人ひとりの努力で社会は良くなってきています。自分の持っている力を過小評価せず、もっとみんながSDGsに主体的に取り組めるようになることを目指して、これからも活動していきたいと思えます



法学部国際政治学科
森 響子さん



ゴール5

あらゆる課題に対して、パートナーシップで 目標を達成する体制を構築する。

ターゲット		インディケータ		目標値(2030年次)
5.1	地方自治体や企業、大学など様々なパートナーとの協力体制を構築する。	5.1.1	地方自治体のパートナー数	10以上
		5.1.2	企業のパートナー数	10以上
		5.1.3	大学など教育機関のパートナー数	10以上
5.2	様々なパートナーとコミュニケーションを図り、新しい価値を創造する。	5.2.1	パートナーズコミュニティ等の開催数	累積10回以上

「法政大学SDGsパートナーズ」を設立

2021年7月に、プロジェクトが目指す次世代のSDGs人材育成・輩出を実現するための新たなプラットフォーム「法政大学SDGsパートナーズ（以下パートナーズ）」を設立しました。このパートナーズでは、持続可能な社会の構築に貢献することを目指すため、法政大学が持つリソースや教育プログラムと、産官学の多様なパートナーが持つSDGsを達成するための実践力を融合させ、新たな価値を創造し、オープン・イノベーションを推進するとともに、次世代のSDGs人材育成を加速させることを目指します。

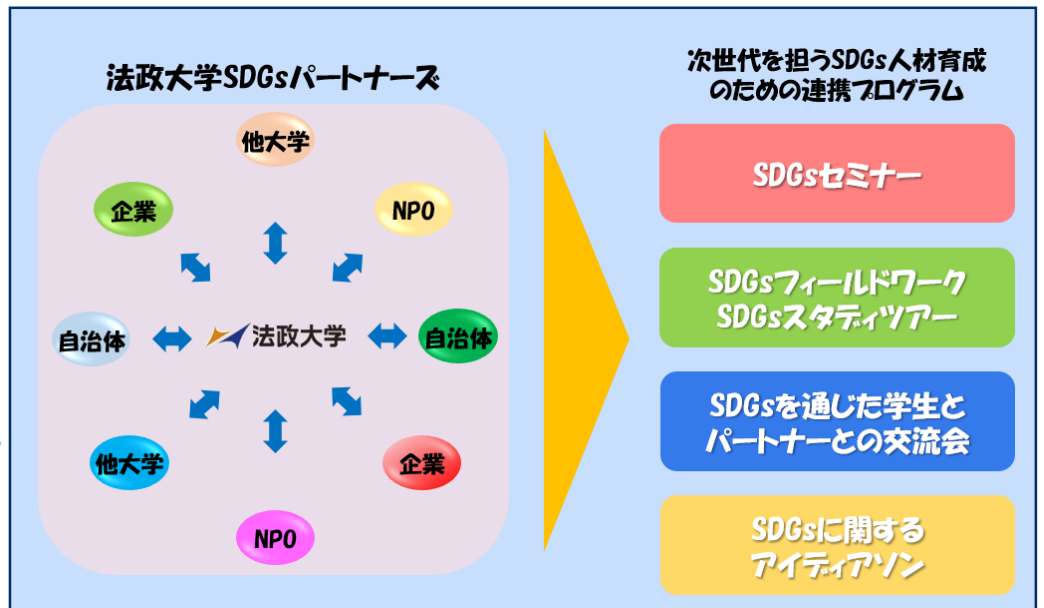
具体的な連携プログラムとして、学生が実践から学び、総合的な思考力を育むための「SDGsセミナー」や、あらゆる現場での学びから、主体性を磨くための「SDGsフィールドワーク・スタディツアー」、学生と多様なパートナーとの交流やパートナー同士の新たな繋がりを目的とした「SDGs交流会」、創造力を働かせ、新たなオープンイノベーションを生み出す「SDGsアイデアソン」などを実施していきます。

現在、このパートナーズに8つの企業・自治体等に賛同いただき、パートナーズに加入していただいています。今後は、単にパートナー数を増加させるだけではなく、実質的な連携を重視しながら発展させ、次世代のSDGs人材育成による、持続的な時給社会の構築に貢献していきます。

<パートナーズ一覧（2021年9月現在）>

- ・KANDAI for SDGs推進プロジェクト
 - ・株式会社富士通ラーニングメディア
 - ・ホクセイプロダクツ株式会社
 - ・一般社団法人ボランティアプラットフォーム
- など

パートナーズロゴ



関西大学とのSDGsアクションプランコンテスト参加学生の声

社会をつくる意識を共有

「ベトナム・フエに暮らす約3万人の障害者が生産する竹かご」と「廃棄予定の越前和紙（日本三大和紙の一つ）」を組み合わせることを提案しました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、障害のある彼らが十分な収入を確保する就労機会はさらに減りました。最終的に、付加価値を付けたアップサイクルでの竹かご生産の提案が採択されましたが、現地では今も厳しい状況が続いています。

私たちのチャレンジは今後も続きます。SDGsアクションプランコンテストは、私たち学生がより良い社会をつくっていくという意識を共有する場となりました。ぜひ、後輩にも積極的にこういった活動に参加して欲しいと思います。

（RSチルドレン代表 平井さん）



最優秀賞を受賞した
RSチルドレンの皆さん

「SDGs+レポート」に対する第三者意見

法政大学SDGs+プロジェクトが2020年に策定した「法政大学SDGs+プロジェクト2030アジェンダ」および本SDGs+レポートについて、みずほフィナンシャルグループ法人業務部サステナブルビジネス企画チーム兼SDGsビジネスデスクの末吉光太郎氏および札幌市環境局環境都市推進部環境政策課環境政策担当係長の佐竹輝洋氏に、SDGsの視点を交えてご意見をいただきました。



みずほフィナンシャルグループ
法人業務部
サステナブルビジネス企画チーム
兼 SDGsビジネスデスク
末吉 光太郎 氏



札幌市
環境局環境都市推進部
環境政策課環境政策担当係長
佐竹 輝洋 氏

「誰一人取り残さない社会」
を形成する人材の育成

2030年までの「行動の10年」が始まりました。
「2025年以降は、Z世代・ミレニウム世代が労働力人口の半数、消費の30%を占める」、これは世界の他の国の話ではなく日本の話です。
SDGsアジェンダ“Transforming our world”の実現には、消費の中心・働く世代の中心・社会の中心として、未来の世代と教育の役割は非常に大きいことは明白であり、本レポートによる貴校のマテリアリティと目指すインパクトの宣言を歓迎致します。
” Do Good, Do it Well! “

法政大学と札幌市は、これまでSDGs人材育成事業やSASH等との連携を行ってきました。法政大学SDGs+プロジェクト2030アジェンダでは、「社会との接続を強化し、誰一人取り残さない社会を構築する」ことをゴールに掲げていますが、人口減少・少子高齢化の進行で最も影響を受けるのは地方であり、地方が持続可能であるためには、地域の担い手となる人材の育成が必須となります。本プロジェクトでは、SDGs人材を世界中に輩出することを目指していますが、その人材が地方を含めたあらゆる地域で活躍し、「誰一人取り残さない社会」を形成していくことを期待しています。

SDGs+レポート総括 —法政大学SDGs+プロジェクトリーダーより—

SDGsへの取り組みを通して 持続可能な未来の構築に貢献する

法政大学は、大学憲章「自由を生き抜く実践知」を掲げ、「地球社会の課題解決」「持続可能な未来への貢献」に務めてきました。これは、国連で採択された2030アジェンダと其中に所収されているSDGsと軌を一にするものです。

さらに、本学では2018年12月に当時の総長がSDGsへの取り組みに関する「総長ステイメント」を発表し、「法政大学SDGs+プロジェクト」を発足させました。

2020年から、世界はSDGs達成の本格化に向けた「行動の10年(Decade of Action)」に突入し、目標達成に向けた行動が求められています。本学でもSDGsの取り組みを現実的な行動に結び付けるために「法政大学SDGs+プロジェクト2030アジェンダ(行動計画)」を策定しました。

このアジェンダの主軸となるのは「教育」と「研究」、「社会貢献」、「学生」、そして「パートナーシップ」の構築です。それぞれに本学独自の達成目標(ゴール)、具体的な行動方針(ターゲット)、進捗状況を数値化するための基準と目標値(インディケーター)を明確に定めています。

SDGsを原動力として 学生のキャリアパス形成を支援

法政大学のSDGsは、学生が主役だと考えています。SDGsは2030年をひと区切りとした通過点にすぎず、さらに先の世界で力を発揮するために、学生のうちに、自身の可能性や能力を磨いてほしいのです。

そのためのSDGs教育として、「法政大学SDGsサティフィケートプログラム」を用意しています。全学部(15学部)から提供されたSDGs科目群から選択して学べるプログラムです。学部を問わずSDGsの知識を幅広く会得したことを大学として認定できるように、修了証を発行しています。

SDGsは、今現在、全世界が集中して取り組んでいるだけに、今後の学生のキャリアパス形成にも影響を及ぼすはずですが、進路を検討するにあたって、SDGsに向き合う姿勢から企業の持続的成長性を推し量る、そうした視点を持つこともできるでしょう。既に、未来を変革する種はまかれています。機運を逃すことなく、その種を育ててほしいと願っています。

法政大学は、SDGsを原動力に成長する学生の後押しができるよう、全学体制で取り組んでいきます。



デザイン工学部
川久保 俊 教授

(主な経歴等)

慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科卒業、同大学院理工学研究科開放環境科学専攻博士後期課程修了、博士(工学)。
2013年本学デザイン工学部建築学科助教に着任、2016年専任講師を経て、2017年から准教授、2021年より教授、現在に至る。文部科学大臣表彰若手科学者賞、グリーン購入大賞・環境大臣賞、建築学会奨励賞、日本都市計画学会論文奨励賞、山田一宇賞など多数受賞。